

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援／放課後等デイサービス Olinaceおゆみ野		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日 2025年 1月 27日 ～ 2024年 11月 30日 2025年 2月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42名 43名	(回答者数) 37名 32名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 27日 ～ 2025年 2月 8日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学理論をもとにした運動療育	・「動」と「静」のセットでメリハリを意識 「動」と「静」の組み合わせで脳と体が成長し集中力を身に付けます。脳と体は相互関係にあります。体を動かすと脳（前頭前野）が活性化し、集中するために必要な脳の領域が元気になります。「動」と「静」の活動を交互に繰り返すことにより、興奮を瞬時に抑制する力が高まります。動と静のメリハリで、より強い抑制力を育てるため、結果的に集中する力が身に付きやすくなります。 ・数分ごとにあそびを変えて脳を刺激する 脳の様々な力を切り替えながら行うことで、楽しく能力を育てることが出来ます。また、子どもも飽きずに続けられるため、集中力も鍛えられます。 ・ストーリーやイメージと運動がセットになっている ハイハイをするだけでも「犬さんみたいに歩こう」など、イメージさせて体を動かすことで想像力を鍛えます。	定期的な運動研修の実施やアレンジした運動プログラムの共有
2	専門職を配置	・専門的視点で、個別及び集団支援を行うことができています。 ・その日の利用児童に応じて日課の工夫や活動プログラムの工夫を行って支援している。	より細やかな支援が行えるように、職員のスキルアップを目指していく。
3	継続的な支援の提供	・年齢を区切ることなく、集団での活動を行っている。 ・異年齢の子への接し方を学べる場を提供している。 ・進級、進学に向けて途切れることのない支援を行っている。	利用児童にとっての最善を模索し、関係機関との連携をより図れるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の入れ替わりがあり、保護者や利用児童が不安に思われているか	キャリアアップのための異動が伴うため。	保護者や利用児童とのコミュニケーションをとり、安心して通っていただけるよう努めていく。
2	利用希望者はいるが、契約待ちをしていただいている	利用希望者が多いが、退会者が少なく支援が必要だと思われる児童を受け入れることができない。	退会後も保護者や児童にとっての寄りどころである事を十分に周知していく。
3			